

令和2年度協働事業提案制度事業報告会 結果報告

1 日時

令和2年10月18日(日) 午前9時30分～午後1時25分
(その後、午後4時まで審査作業部会意見取りまとめ)

2 会場

ウェルネスさがみはら7階 視聴覚室

3 報告会対象者

令和元年度協働事業提案制度実施事業のうち、令和元年度をもって終了した事業(6事業)及び令和2年度が最終年度となる事業(3事業)の実施団体及び事業担当課【合計9事業】

4 参加者

26名

(内訳) 団体12名、事業担当課14名

※新型コロナウイルス感染症対策として、傍聴を禁止とし、各事業報告をビデオ録画の上、後日インターネット(相模原チャンネル)にて公開。

5 審査員の評価

各事業の成果に対し、4項目4段階で評価を行った。

評価項目 事業の有効性、協働の有効性・効果、役割分担の適切性、経費の適切性

評価区分 a: 高く評価できる b: 評価できる c: あまり評価できない d: 評価できない

※評価点は、a=4点、b=3点、c=2点、d=1点と置き換え点数化し、

No.1～6については80点満点(審査員5名×4項目×4点)、

No.7～9については64点満点(審査員4名×4項目×4点)をいずれも100点満点に換算。

No.	事業名	評価点 (100点満点に換算)	主な審査会意見
1	高尾山からの相模湖・藤野方面へのハイカー誘客促進事業	84	○看板作成により、相模湖周辺へのハイカー誘客の下地はできたと考える。 ○今後は地域で活動する市民や団体を巻き込み、商工会という組織の特性を生かして、ハイカーの誘客に留まらない町おこしという観点でも活動していただきたい。
2	自動車ドライバーを含む自転車利用者向け交通安全講習会事業	100	○事業の成果を数値として明確に表し、信号機の待ち時間変更など、警察も巻き込んだ取組がなされている点を評価できる。 ○事業の中で把握した地域の交通事情を活用した交通版ハザードマップの作製や、小中学生への対象者拡大など、交通事情の変化に応じた事業へ発展させていただきたい。

3	食でつながる子育て相談事業	74	<p>○協働で事業を実施する上では、双方が「出来ること」を示し、強みを生かした取組にしていくことが重要である。</p> <p>○事業の目的や意義については一定のニーズがあるものと考えため、地域性等を考慮した新たな取組に繋がることを期待している。</p>
4	津久井産材製キエーロ（木製の生ごみ処理器）の開発・普及モデル事業	76	<p>○ごみ問題と地域材の活用を同時に達成することを目的としたテーマ設定は良いものであった。</p> <p>○今後の展開として、ビジネスとして確立することが重要であるため、環境への意識が高い人をターゲットとして、その人たちの購買意欲に訴えるビジネスモデルを考えていただきたい。</p>
5	森林活用モデル検討事業	95	<p>○着実に事業を進め、初期の目標は達成したことは評価できる。</p> <p>○津久井地域の森林資源は市の財産と考えるため、市全体でこの事業の成果を生かし、シティセールスに繋げていく方法を検討していただきたい。</p>
6	WEB を活用した野菜販売促進プロジェクト事業	100	<p>○クリエイターならではの PR 方法が有効に働き、団体が組織化されすぎていないことや人と人との繋がりを大事にしていることが今回の事業の成功の要因ではないかと考える。</p> <p>○今回の事業を一つの成功モデルとして市全体で共有していただきたい。</p>
7	市民講座による生涯学習の推進事業	94	<p>○団体の目玉となるような人気コンテンツを開発し、参加者の多い収益性のある講座を事業化するなどの取組により、財政基盤の構築を図っていただきたい。</p> <p>○コロナ禍において人を集めての講座が従来よりも困難なことを踏まえ、オンラインと対面のハイブリッドによる講座実施など、工夫して活動していただきたい。</p>
8	津久井里山体験ツアー運営による地域活性化事業	94	<p>○年々集客数が増加しており、協働で実施した意義があったと考えられる。</p> <p>○ツアーを相模湖・津久井に広げていくために、まずは藤野でしっかりと利益を得て自立し、一つのモデルとして波及させることも一つの方法と考える。</p>
9	「木もれびの森」案内看板及びマップ製作事業	95	<p>○団体構成員が年々増加しており、本事業の目的である担い手の育成につながっている点は評価できる。</p> <p>○事業で作成したものをどう生かしていくかが重要であるため、今後も地域の人が使えコンテンツを作成し、地域の人を巻き込んでいく取組を期待している。</p>

以上